

秋田ばっけの会便り

No.110 (2024年11月号)



KHJ秋田ばっけの会
090-9539-2365
khjakitabakke@gmail.com

皆さまいかがお過ごしでしょうか。

* * * * *

第100回「集い」 11月3日(日)

1週繰り上げての開催ということもあって、9名の参加者でした。いつものようにそれぞれの近況や心境を話した後、それぞれ参加の講演会、研修会(下記に報告)などの情報や感想を伝え合い、気になったことなどをもとに意見を述べ合いました。

話題となったことの一つは、よく聞く「ひきこもりも生き方の一つ」について、もう一つは、当事者・経験者KNさんからの質問「子どもが話したいと思った時、親はどの位聞けるか、聞きたいと思うか」でした。休憩時間も真剣な議論が続き、深めることができました。

皆さまはどのようにお考えになるでしょうか。

楽しい話、わくわくする話って? 視点を変える方法は? などなど、と話して、やはりいつもの「対話」と「練習」に落ち着きました。

参加者は少なかったですが、100回目の「集い」に相応しい内容だったと思います。

10月27日、KHJいわて石わりの会の「集い」で講演会「ひきこもりを支援する家族内コミュニケーション」(奥野雅子氏 岩手大学教授/臨床心理士)が行われ当事者・経験者のKKさんが参加しました。

* * * * *

本人の会「居場所」 11月16日(土)

文化の秋、スポーツの秋、あちこちでイベントや研究会が開催され、とてもいいことなのですが、人口減の秋田では人が分散してしまうという悩ましさもあります。そうした中で、8名の参加で行いました。「お客様」でいるのではなく、参加者皆が「場まわし」を経験してみたらどうかという案が出され、いつもの顔馴染みの良さを生かして、さっそくKNさんが第1号で挑戦しました。「趣味」に関連した話題が出され、野球、古着、ファッションとどんどん話が進みます。KNさん、難しさを実感したとのこと。フィードバックが大事、失敗を重ねて学習し上達していく、言語化もファッションも「訓練」が大事、といつもの流れでしたが、それぞれいい経験になったのではないのでしょうか。

「朝日新聞」(11/13)鷲田清一『折々のことば』に、朴沙羅の『ヘルシンキ 生活の練習』の文から「共感や根気や感受性は、個人の才能や素質ではなく「練習すべき技術」だというのだ。人格でなく問題に焦点を当て、それを解決するために磨くべき技術。なるほど人生、最後まで「練習」が続く。」と紹介されていました。

同じく「朝日新聞」(11/25)に、埼玉県の高校生の投書がありました。学校給食を話題にしたときの体験で、「当たり前」の違いを楽しみ盛り上がるようになった。「違う」ことが会話の種になることに気づき楽しくなった。」と。

* * * * *

📖 モミの今月のオススメ

『あなたは、なぜ、つながれないのか〜ラポールと身体知〜』(高石宏輔 著 新潮社)

大学時代にひきこもり心身の変調に苦しんだ著者。他人と深く理解し合う道を探る内容です。

秋田ばっけの会 2024年12月の予定

●第101回「集い」

日時; 2024年 12月14日(土) 13:30~15:30

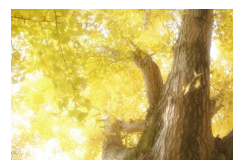
会場; 秋田市役所内センター3階 洋室2・3

●本人の会「居場所」

日時; 2024年 12月22日(日) 13:30~15:30

会場; 秋田市役所内センター3階 洋室2・3

●運営ミーティング 12月14日(土)「集い」終了後に予定しています。



《報告・情報・紹介》

- ★ 現在厚生労働省では『ひきこもり支援ハンドブック』の検討を進めていますが、その「素案」の意見照会（11月29日まで）が厚労省からKHJ本部を通して来ています。回答ページが厚労省HPに掲載されていますので、ぜひお読みになって下さい。障害や病気、社会的少数者、不登校やひきこもりへの社会の見方や考え方の近年の変化、当事者や経験者の発信や行動の力も大きいことが、改めて感じられる内容です。素案の「本書の目的」にも述べられていますが、このことが、ひきこもりだけでなくその他の支援の変化にも、本人や家族の力にもつながることを願います。
- ★ 11月1日、秋田県子ども・女性・障害者相談センター精神保健福祉部ひきこもり相談支援センター主催の『ひきこもり相談支援者研修会』が行われ、ST代表、事務局SYが参加しました。センター会場とオンラインで100名近い参加者でした。境泉洋氏（宮崎大学教授/KHJ理事）のご講演「家族支援から始めるひきこもり支援」をお聞きしました。

印象に残ったこと・・・♡「ひきこもりを新たな人生の準備期間ととらえる」⇒振り返った時にそう思えるといい。♡「わかろうとする姿勢」♡「家族支援の目的～家族を元気に、家族がゆとりをとりもどす」⇒[ばっけの会]も大いにゆとりをとりもどす話ができたらと再確認しました。 ST

- ★ 11月17日、NPO法人セーフティネット秋田つなぎ隊の『生きづらさを支える研修会』にご案内をいただき、事務局SYが参加させていただきました。大平邦男氏（交流分析士インストラクター、つなぎ隊相談員）の「自己理解とコミュニケーションの心理学を学ぶ」をお聞きしました。「交流分析」という視点で自分自身を知りコミュニケーションを考える、視野が広がりました。
- ★ 11月20日、秋田市福祉総務課の『生活困窮者自立支援制度における研究交流会』に、家族会員KKさんと事務局SYが参加しました。テーマは「生きづらさを抱える方たちへの支援について～住居確保困難者と若年層のひきこもり」でした。30名ほどの参加者がグループごとに事例について意見交換しました。職場も職種も立場も異なる人が集うことで、様々な角度から観た考えを知ることができましたし、その大切さを改めて実感しました。

KKさんの感想・・・現役時代が思い出され、なつかしく感じた時間でした。参加者は若い人が多く頼もしく感じました。自分もブラッシュアップしないと、と思いました。



※各研究会や研修会の資料が事務局にありますので、ぜひご覧下さい。

KHJ関係の情報です。

KHJ本部から「ひきこもり支援基本法の意見採択の状況」のお知らせがありました。愛知県初め9県議会、名古屋市初め14市議会で意見書が採択されているとのことです。

11月15日には、「支部情報交換会」が行われています。

11月9日、10日の全国大会石川大会は、280名ほどの参加のもとに行われたとのことです。石川県の皆さま、参加の皆さま本当にお疲れ様でした。そしてありがとうございました。

全国の支部有志の作成した『なぜ私たちは黙ってられないのか～真実を知ってほしい。誰も排除しない社会のために』という冊子が届いています。16日、18日には「上田理香さん、池上正樹さんの話を聞く会（ZOOM）」のご案内があり[ばっけの会]事務局数名が参加しました。

本部理事長から「聞く会」参加自粛の要請が届いております。

しっかりと事実を知り、双方の考えを聞いていきたいと考えています。

- ♡感謝 ・秋田市のIT様、KS様、鹿角市のNW様からご寄付を、大仙市のYY様から切手をいただきました。
- ・「集い」「居場所」に参加の皆さまからお菓子や果物をたくさんいただきました。

- ★ 年会費とカンパへのご協力をお願いします。
 - *切手やコピー用紙、封筒などの物品も大歓迎です。
 - *送金は、北都銀行 檜山支店（名義）KHJ秋田ばっけの会 事務局長 妹尾弘（店番）015 （口座番号）8108428

※通院などで事務局不在の場合もあります。ご連絡やお問い合わせはE-mailか携帯電話のSMSで。

※ご希望があれば「便り」をメールでお届けすることも可能です。